

予 算 要 求 資 料

令和7年度3月補正予算

支出科目 款：総務費 項：企画開発費 目：企画調査費

事業名 伝統技術の継承支援事業費(R8)

(この事業に対するご質問・ご意見はこちらにお寄せください)

観光文化スポーツ部 文化伝承課 伝統文化係 電話番号：058-272-1111(内3149)

E-mail : c11148@pref.gifu.lg.jp

1 事業費 6,840千円 (現計予算額) 0千円

<財源内訳>

区分	事業費	財 源 内 訳						
		国 庫 支出金	分担金 負担金	使 用 料 手数料	財 産 入	寄 附 金	そ の 他	県 債
現計予算額	0	0	0	0	0	0	0	0
補正予算額	6,840	3,338	0	0	0	0	0	3,502
決定額	6,840	3,338	0	0	0	0	0	3,502

2 要求内容

(1) 要求の趣旨(現状と課題)

県が行った調査により、職人等が使うノミやカンナなどの手道具の供給が、道具産地の、後継者不足・高齢化・需要減による廃業などにより、数年後には途絶える恐れがあるなど、危機的な状況が判明した。

こうした状況を踏まえ、「匠の国ぎふ」の伝統技術を次の世代へ継承するため、伝統的技法を熟知した工芸職人・技術者の育成に加え、職人等が使用する「道具」や「原材料」の保存・伝承に取り組む必要がある。

<主な課題>

- ・後継者不足・高齢化
- ・道具の供給の不安定化
- ・原材料の枯渇

(2) 事業内容

伝統技術を次の世代へ継承していくため、県内の工芸職人・技術者等からの「道具」や「原材料」「人(後継者)」に関する相談を受け付け課題解決を支援とともに、次の事業を行う。

- 相談業務(道具、原材料、人などの伝統技術に関するアウトリーチ型相談支援)
- 調査業務(重点課題の調査、道具の試作、代替原材料による試作、人材育成等)
- 広報業務(報告会の開催、情報発信等)
- 連携業務(連携会議の開催等)

(3) 県負担・補助率の考え方

本県の文化芸術資源の保存・継承のために必要な取組みとして、県の負担は妥当である。

(4) 類似事業の有無

無

3 事業費の積算 内訳

事業内容	金額（千円）	事業内容の詳細
旅費	163	業務旅費
委託料	6,665	相談業務等業務委託
その他	12	郵便代
合計	6,840	

決定額の考え方

4 参考事項

(1) 各種計画での位置づけ

- 「清流の国ぎふ」創生総合戦略
施策編 3 (1) 地域の魅力・清流文化の創造・伝承・発信

(2) 事業主体及びその妥当性

県内に残る伝統的建造物や伝統工芸に係る技術を確実に保存・伝承するため、それらを支える「道具」「原材料」「人（後継者）」に関する課題解決を支援する事業であり、県が事業主体となることは妥当である。

事 業 評 価 調 書 (県単独補助金除く)

<input type="checkbox"/> 新規要求事業
<input checked="" type="checkbox"/> 継続要求事業

1 事業の目標と成果

(事業目標)

- ・何をいつまでにどのような状態にしたいのか

県内の伝統技術を着実に保存・継承していくため、「道具」「原材料」「人（後継者）」に関する相談を聞き取り、課題解決に向けた取り組みを推進する。

(目標の達成度を示す指標と実績)

指標名	事業開始前 (R)	R6年度 実績	R7年度 実績	R8年度 目標	終期目標 (R9)	達成率
相談・訪問件数 (年間)		116 (年間)	129 (R7.9現在)	200	200	

○指標を設定することができない場合の理由

(これまでの取組内容と成果)

令 和 6 年 度	・相談件数は1年間で116件あり、指標の30件を大幅に上回っている。4月から相談事業を開始し、チラシの配布やHPの開設、SNS等による情報発信の効果が出たと考えられる。
	指標① 目標：200 実績：116 達成率：58 %
令 和 7 年 度	・相談件数は4月から9月までで129件となっており、半年で昨年度の相談実績を上回っている。相談事業が徐々に周知されてきたことや、昨年度から継続している相談もあるため件数が増加していると考えられる。
	指標① 目標：200 実績：129 達成率：65 %
令 和 8 年 度	・取組内容と成果を記載してください。
	指標① 目標：____ 実績：____ 達成率：____ %

2 事業の評価と課題

(事業の評価)

・事業の必要性(社会情勢等を踏まえ、前年度などに比べ判断)

3：増加している 2：横ばい 1：減少している 0：ほとんどない

(評価) 3	県内の伝統技術を着実に保存・継承していくため、県内の工芸職人・技術者等からの「道具」「原材料」「人(原材料)」の課題を解決することは重要である。
・事業の有効性(指標等の状況から見て事業の成果はあがっているか)	
3：期待以上の成果あり 2：期待どおりの成果あり 1：期待どおりの成果が得られていない 0：ほとんど成果が得られていない	
(評価) 3	事業を開始して半年間で指標を大幅に上回っており、想定していた以上の効果が出ている。
・事業の効率性(事業の実施方法の効率化は図られているか)	
2：上がっている 1：横ばい 0：下がっている	
(評価) 2	実施にあたっては、専門家等の意見を踏まえ効率的に実施する。

(今後の課題)

・事業が直面する課題や改善が必要な事項

伝統技術を次の世代へ継承するためには、「道具」「原材料」「人(後継者)」に関する課題解決を支援していく必要がある。

(次年度の方向性)

・継続すべき事業か。県民ニーズ、事業の評価、今後の課題を踏まえて、今後どのように取り組むのか

県内の伝統的建造物を含む文化財の修復や伝統工芸品等を作るための技術を着実に次の世代へ継承していくために、道具や原材料の伝承及び安定需給、人材(後継者)育成に向けて、長期的視野に立った取り組みが必要である。

(他事業と組み合わせて実施する場合の事業効果)

組み合わせ予定のイベント 又は事業名及び所管課	【○○課】
組み合わせて実施する理由 や期待する効果 など	